県大会の方針を具体化、 第１回常任理事会開かれる！

７月４日、 県大会の方針をうけて第１回常任理事会が開催されました （13 名）．
主な議題は、 ①年間のスケジュール、 ②当面の取り組み、 ③仲間づくりでした。 主な点について報告します．

１． 年間スケジュール等はつぎのとおり決まりました．

（１） 理事会等の会議日程

- 第１回常任理事会　7/4
- 第１回組織強化委員会
  8/1 （水） 午後 2 時～ 5 時
  組織強化委員会を毎月 1 回開催していく．
- 第２回常任理事会
  8/2 3 （木) 午後 2 時～ 5 時
- 第２回理事会
  9/1 （土） 午前 10 時～午後 4 時
- 12 月下旬に第３回常任理事会を予定
- 1 月下旬に第 3 回理事会を予定

（２） １２月までの運動の日程はつぎのとおりです．

- 8/6 ～15 戦争と平和を考える特別旬間
- 9/14 ～10/15 全市町村での地域宣伝カーによる行動。 各部ロックで一週間実施
- 10/21 （日） 「米軍機くるな ・ 安保」中心の県民集会
- 11/3 （土） 平和委員会関係者による「９条の会の交流集会」
- 12/8 「新聞意見広告」 掲載予定
- 12 月上旬 ワイン販売 ・ 配送

以上は 8 月の常任理事会までに具体化します．

2． 話し合った内容と決まった事

・8/6 ～15 戦争と平和を考える特別旬間について県平和委員会としては特別な取り組みはしないが、 各平和委員会で 「つどい」、 展示会などをおこなっていく．

・ 参議院選挙について常任理事会名でアピールを出す．

・「米軍機くるな」 の取り組みでは、 地元に協力を呼びかけること。 また、 騒音測定を実施したらどうだろうかという意見がでましたが、 今後検討していく事にしました．

・ 秋の全市町村の宣伝行動では、 各ブロック毎に 8 月の常任理事会までに計画をつくる．

・「10 ・ 21 県民集会」 は 「米軍機くるな」 ・ 安保のテーマで考える． 内容や規模については 8 月の常任理事会までに事務局で検討．

・ 11/3 の 「9 条の会の交流集会」 はどのような形で実施するかは、 内容が多岐にわたるのでプロジェクトチームをつくりすすめる．

・ 仲間づくりは８月末までに 20 ～ 30 名目標にする。 過去のジャンボ計画 （00 ～ 05 年で 1500 名の会員実現） の失敗の教訓は、 仲間づくりは 「押しつけ」 では成功しないということだった．

・ さらに、 各平和委員会の運動の取り組み状況や力量の違いなどがあり、 運動と仲間づくりが 「自然体」 でうまくいっている所と運動もままならぬ所では 「温度差」 がある． 組織強化委員会で各平和委員会と話し合って各平和委員会の実情に見合った仲間づくりを進めていく必要がある． 平和新聞読者拡大やかわら版を会員以外の方々に普及していくことが大切である．

以 上

参議院選挙にあたって

いよいよ第２１回参議院選挙が今月１２日に公示され２９日投票日の日程で始まります． 今回の選挙の特徴は、 年金 ・ 増税 ・ 「格差」 問題など小泉前政権から続いている弱いものいじめの政治に私たち国民がストップをかけるかどうかにあります． もう一つの特徴は、 すでに一昨年１０月に自民党は現在の憲法９条の改正を中心とする 「新憲法草案」 をつくり、 今年の５月には改憲手続法＝ 「国民投票法」 を強行成立させ、 憲法改正を選挙の争点にしようとしている事です． また、 安倍首相のめざす 「戦後レジームからの脱却」 のもとに、 従軍慰安婦、 沖縄戦、 原爆投下容認など、 かつての戦争を正当化する発言や動きが強められています．

政治の基本は生活の安定 ・ 向上と平和に暮らせる環境づくりにあります． 身体的 ・ 経済的に困っている人々に光をあてる政治です． また、 戦争政策でなく平和政策で安心して豊かな社会をめざす政治です．

経済大国から政治大国さらに軍事大国ではなく、 経済力を福祉の充実に、 さらに平和大国に向けて平和と暮らしがいっそう良くなる社会です．

世の中を良くも悪くもするのが政治です． そして私たちの生活も政治抜きには何ひとつ考えられません．

選挙に当たってはそれぞれ考え方や立場の違いがあります． しかし暮らしを守り ・ 平和に生きる権利を守る政治を実現していく事は共通の願いです．

平和と暮らしの重みを一票に託し希望ある社会を築いていきましょう．

２００７年7月４日
茨城県平和委員会第１回常任理事会

平和かわら版
平和新聞茨城版
No.476
月３回 発行
2007.7.15

発行：茨城県平和委員会
〒310-0912 水戸市見川5-127-281
Tel/Fax 029-251-2806
E-mail ibahei@amber.plala.or.jp

２００７年原水爆禁止国民平和大行進

7/8　取手・つくばみらい・守谷地域コース

ふじしろ平和の会　根本 和彦

藤代庁舎での出発式に、 ４月２７日に就任した藤井市長が歓迎のあいさつを行いました。 「中学生時代に原爆資料館を見学し、 原爆の恐ろしさを痛感した。 戦争の悲惨さ・原爆の惨劇を風化させてはならない」 と。実行委員会に賛同金とペナントが寄せられました。

つくばみらい市では、 企画政策課長が、守谷市役所では副市長が、 そして取手市役所では総務部長が歓迎のあいさつを行いました。

礼文島から行進を続けている、 通し行進者の浅田さん(大坂)は、 「行く先々の自治体で平和行政のとりくみを聞いて勇気をいただきながらこれまで行進してきました。 たくさんの方の願いを広島・長崎に届けたい」 とあいさつしました。

行進団は、 取手駅西口集会では約６０名となりました。なかには、 初参加で、 藤代庁舎で太鼓の演奏後、 そのまま１日歩いた高校生(鈴木君)もいて、 一言あいさつでは、「核兵器廃絶をめざしたい」 と発言し、 参加者を感激させました。

2007年『原水爆禁止世界大会』参加要綱

☆日時　8月7日　9:45羽田発　（ANA247便）

☆参加費用　一般89500円（2泊3日朝食のみ、参加費・羽田～会場までの交通費含む。障害者・学生・高校生は別料金、詳しくは問い合わせ乞）

☆結団式

8月4日（土）14:00～

水戸市民会館リハーサル室

下妻市内を歩く平和行進団

「私の戦争体験」

内原・友部平和の会　飯村　一雄

敗戦時、 旧制中学２年生だったから軍隊は行かなかったが戦争体験はある。

1945年3月10日、 午前零時ころからアメリカの爆撃機B29大編隊による東京下町への焼夷弾による大空襲で、10万人以上の死者がでたその日の朝、 7時頃、 常磐線内原駅で下りの汽車を待っていた。 空はどんより曇っているように見えた。 その空から焼けた紙のようなものが次から次へと落ちてきた。 それを見ながら友達と 「昨夜の東京の空襲はすごかっただろうな」と話をしながら、 暗い気持ちになったのを覚えている。

1945年8月1日夜水戸が空襲を受けた。 2日の朝汽車は水戸より一つ手前の赤塚駅までしか行かなかったから、私達は線路沿いに歩いて学校へ行った。 水戸の偕楽園･吐玉泉で傷ついて倒れている人がいたが、 当時の異常な状況の中でそのまま通り過ぎてしまった。 馬が倒れているのも見た。 学校は勿論全焼していて、 熱い灰の上を歩いたのを覚えている。 後でわかったことであるが何名かの友人も空襲で死んだ。 当時3年生以上は勝田の軍需工場に動員されていた。 日立から勝田までアメリカ海軍の艦砲射撃があった際、 先輩も何名か犠牲になったことも知った。

1945年敗戦前、 夏休みはなかった。 私達は午前中は授業を受けたが、 午後は, アメリカの敵前上陸に備えてのケーブル線埋めや、 松根油をとるための松の根株を掘る仕事に動員されたりした。

学校が焼ける前だったが、 通学途中たまたま水戸駅に居たとき、 アメリカの艦載機に対して, 貨車に備え付けてあった機関砲を陸軍の兵隊が発砲したのも覚えている。

旧制中学だから軍事教練は授業の一部としてあり、 配属将校から私たちは三･八式歩兵銃の射撃訓練を受けた。 手旗信号、 モールス信号も教えられた。 私たち生徒の服装は戦闘帽に巻脚絆だった。

アメリカによる本土空襲が始まってからは日本本土はまさに戦場だったのである。

戦後、 学習の中であの15年戦争は侵略戦争であり、 その反省の上に制定されたのが日本国憲法であると言うことを認識したことが、 私の今平和運動をしている根底にある。

日本平和委員会全国大会に参加して

北茨城平和の会　藤田　稜威雄

○ 入会してまだ1年未満、 勉強のつもりで参加しました。 分散会では、 30年前の労組青年部活動時代を思い出し 「青年問題分科会]に加わりました。

○ 若者たち(20から35歳代)の発言で気になったこと。

1　戦争体験談･写真展 （シベリヤ･空襲･原爆など）で悲惨なことばかり強調されると、 ついていけないと感じている若者がいる。 （経験がないし、うっとおしい） 訴え方にもう少し工夫があっても？

2　ネットカフェ内に 「自衛隊 “ 戦車で訓練、 かっこうよく、 脱フリーター宣言 ”」 の募集チラシが掲示されていた。 「格差社会をぶち壊したい、 戦争でもやってガラガラポンでーー！」 そんな声もよく耳にするようになってきた。

○ 藤田の話したこと、 思うこと。

1　太平洋戦争前の大多数の人たちは “ 日本国は神の国･天皇がいる ” だから負けるはずがないと信じ、侵略･加害者の認識も無かった。 気がついたときには原爆を落とされていた。
⇒気がついた時、 武力を使うような時、 になってからでは手遅れだよ！

2　戦争体験のない若者たち （次代をにない、 リードしていく） に伝えること、 訴えることはしっかりやらねば。

3　若者たちを取り巻く環境は、 派遣労働･フリーターの “ 格差社会 ”、 正社員もあおりを受けて長時間残業。 平和運動に目が向きにくいのでは？ 「かわら版」 広報チラシ等、 若者たちに見て貰う、 振向いて貰えるさらなる工夫が必要ではないでしょうか。